

広報 たかもり

発行 阿蘇郡高森町役場 TEL (高森局09676) ②1111 [代表]

人口				
—10月31日現在—				
9,610人	男	4,667人	女	4,943人
世帯数		2,616		
転入	28	出生	6	
転出	31	死亡	5	



第232号
昭和53年

12月

冬の夕陽... ゲートボール

豊かな実りは黄金の波となって広がり、やがて稲刈り、静かな田園風景は足を止めたいアングルです。早朝から元気な号令や笑い声が聞えるゲートボールも、一つの風物詩となりました。

私も老人会員でありながら、一度もやったことがなく、スケッチに行つた際やってみました。なるほどおもしろいものです。病みつきにならなければよいのですが——。

下町 島田 幾一

12月31日	12月24日	12月17日	12月10日
小林医院	寺崎医院	東医院	馬原医院
高森②0075	高森②0378	高森②0309	高森②0646

診療は午前9時から午後5時まで

霧動く谿の紅葉に足を止め旅一夜こもる湯宿の紅葉雨流れ急霧湧きやまぬ紅葉谿峠路の残る紅葉に時雨かな紅葉濃し渡れば日向国境はるばると迎へし客に祖母時雨沢庵も漬けて安らぐ小春かな奥阿蘇の紅葉の句座に時雨けり刀自留守の句碑に落葉の重なりて枯色の動ける芒野に佇ちて赤黄と落葉小川にきりもなややれやれと柿も吊して冬ごもり遠来の句客去りても時雨まだ建て増しは祖母の紅葉を真向いに待つという小心の弾み時雨ては八十の齡重ねて句碑の秋トンネルを抜くれば日向岩紅葉枯れ急ぐ中に梅鉢草の花

肥後狂句

ブス 受話器握ればミス日本
紅葉山 うんと押し花取るがええ
執念 見返す意地が踏むミン
紅葉山 三脚据ゆる滝の下
感謝状 ずらつと並ぶ応接間
平気平気 今ヶ月落す講のある

町民文化

俳句

能谷 紫雲
草村 鶴代
野尻 晋道
甲斐 菊江
野尻さだむ
草村あつ代
瀬井てる女
恵良あや女
原田 健正
能谷あつ子
瀬井せん女
能谷起代女
藤井秋雪女
長友たつ子
馬原その女
能谷こう女
野尻 里女
馬原 岳人

浦塚 南天
岡本 琴司
馬原 馬笑

おめでた おくやみ

出生		S53. 10. 16~11. 15受付			
(住所)	(保護者)	(出生児)	(性別)	(生年月日)	
上町	藤崎 松男	梨 沙	女	S53. 10. 3	
戸狩	岩下 頼夫	隼 人	男	53. 10. 18	
天神	三井 治男	恵 美	女	53. 10. 24	
昭和	池邊 幸雄	忍	男	53. 10. 24	
昭和	住吉 五夫	和加子	女	53. 11. 7	
草部	田上 正堯	亜 紀	女	53. 10. 10	
永野原	甲斐 武範	美由紀	女	53. 10. 17	

死亡		(年 齢)			
(住所)	(遺 族)	(続柄)	(死亡者)	(死 亡)	
横町	後藤 恒夫	父	後藤 喜直	75 S53. 10. 22	
昭和	田代 廣一	母	田代 トマ	75 53. 10. 29	
昭和	井 シヅカ	夫	堤 一	78 53. 11. 1	
下町	山村 法雄	母	山村スミ子	70 53. 11. 1	
下町	栗屋 トナ	夫	栗屋 鶴行	73 53. 11. 7	
西中原	橋木野幸男	母	橋木野ケサ子	85 53. 11. 14	
津留	甲斐ハツエ	夫	甲斐 兼義	80 53. 10. 16	
野尻	瀬井 稀	父	瀬井 繁	83 53. 10. 20	

(一) 寄付

ありがとうございました

ブス 顔は見せんで歌わんか
紅葉山 阿蘇はドレスの裾模様
感謝状 ヘそくり場所のぼるる額
紅葉山 ヤマメの里が招く客
そるばってん 噴唾するしこ好きイなる
感謝状 息のある内イ握らしゆう
ブス ハゼ負け面ラテ思とつた
平気平気 保積金さえ積みば良え

田上黙公子
林田 一声
林 不志
本田 紫郷

▽高森昭和の田代新祐さんから (母、トマさん・75歳死去)
▽高森下町の井ンズカさんから (夫、堤一さん・78歳死去)
▽高森昭昭の岩下ヤスエさんから (母、ケサ子さん・85歳死去)
▽高森旭通の岩下ヤスエさんから (母、ケサ子さん・85歳死去)
▽高森昭和の田代広一さんから香典返しとして、昭和老人クラブにゲートボール用具一式
▽野尻川上の瀬井龍蔵さんから野尻保育園に室内遊具四台
▽草部社会の足立ウメカさんから病見舞の返礼として草部老人クラブ「福寿会」へ金一封
▽草部社会の阿南鶴義さんから病見舞の返礼として草部老人クラブ「福寿会」へ金一封
▽野尻の瀬井さんから香典返しとして、老人クラブ「ときわ会」へ金一封
▽高森昭和の田代広一さんから香典返しとして、昭和老人クラブにゲートボール用具一式
▽野尻川上の瀬井龍蔵さんから野尻保育園に室内遊具四台

(歳末助け合いとして)
▽高森昭和の大家孝勇さんから (ひとときのお返しにかえて)
◎その他の寄付

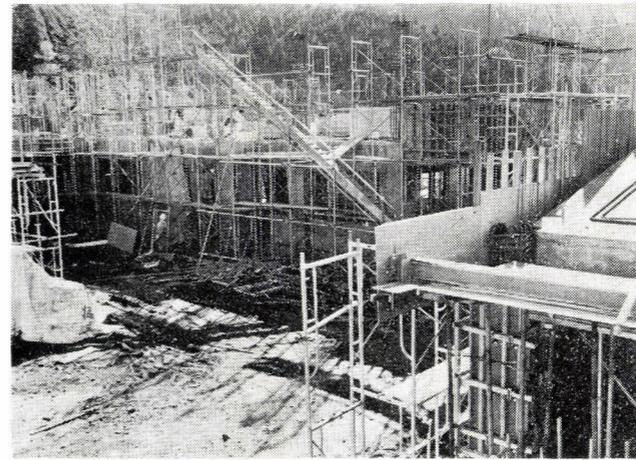


草部、野尻地区の自動電話化

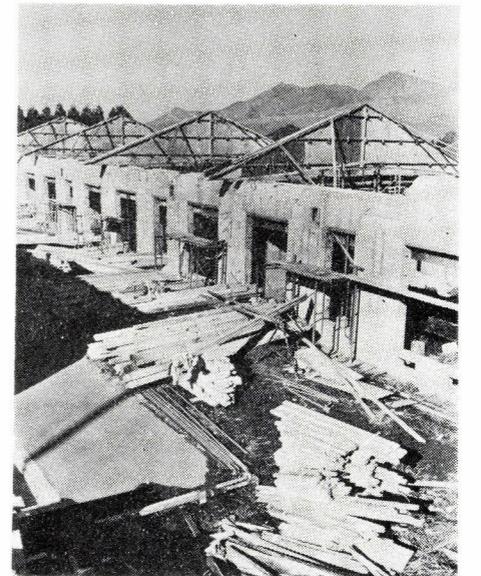
高森電報電話局が草部と野尻地区に進めていた自動電話化の工事が完成、さる七月十九日午後二時から運用が開始されました。開通式では岩下町長と沢田県知事の記念通話や、津留の野尻信之さん(61)、草部の古庄マサ子さん(61)らも遠方に住む娘さんとのふるさと記念通話を行いました。

町政 '78

町では、町議会はじめ広く各界のご協力を得て「住みよい豊かな郷土づくり」を目指し、各種の基盤整備に取り組んでいます。その成果の現れとして、ことしは町道、農道が数多く改良・舗装されたのをはじめ、河原小学校、黒岩簡易水道、町営住宅などいろいろな事業が完工しまし



高森小も全面改築へ



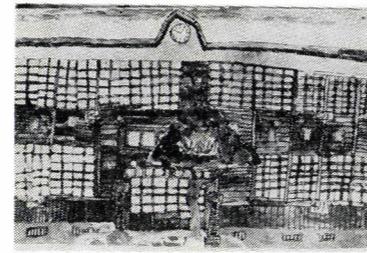
須坂団地に八戸の住宅建設

南阿蘇畜協東側にある須坂団地には、本年度も昨年度に引き続き八戸の町営住宅を建設しています。須坂団地の敷地はおよそ四千九百九十二平方(千五百十坪)。ここに六畳二間、四・五畳二間、キッチンからなる第一種住宅四戸と、六畳二間、ダイニングキッチンつきの第二種住宅四戸が来年三月には出来上がる見込みです。



町道「河原—大戸ノ口線」六・六の改良舗装は本年度で完了、高森、色見地区と野尻地区が快適な道路として最短距離で結ばれました。従来は道幅も狭く急坂の農道だったため、四十五年から農免道路として改良が続けられていたもの。本年度舗装されたのは大戸ノ口側の約二・一キロで総工費は四百五十万円。

みんなの広場



「校舎」 高森小2年 たにがわえいし

北海道民泊研修に参加して

色見戸狩 色見 継治 (25)

私たち南阿蘇六カ町村に住む勤労青年二十八人は、去る九月十日から十八日まで八泊九日の日程で北海道の十勝、清水、新得、鹿追、芽室の四町村に民泊研修する機会を得た。

まず私たちは、民泊研修にはいる前に、ワインの産地「池田町」を訪問した。ここは町全体が活動的で一人一人が町づくりに熱意を示しているかのようだ。老人の「生きがい焼きセンター」もその中の一つ。老人たちが自分の手でデザインして、焼き物をつくる姿は、とっても生き生きとして、楽しいものに思えた。また農業後継者対策として「結婚記念造林」がある

「青年の主張」県代表おめでとう

南在 岩下 亀 (59)

NHK青年の主張コンクール熊本県予選で、本町河原出身の後藤一恵さんがみごと県代表に選ばれました。私は本人の努力に対して深甚の敬意を表するとともに、今後ますます精進され、九州代表めざして頑張ってもらいたいと思

解放の力

学習会の連絡や、その他のプリントが配布されると、ほかの生徒から「まあだありよるとや」「いつも行かないとや」と言っ

身近な実態の見直しを

高森町同和推進教員の会

このことは、地区外の子供に「自分が同和の人ではないことを明らかにしてほしい」、あるいは「一部の人が同和だけれん自分たちまで差別される」と言わせることになり、また地区の子供に、自分の立場を知ったときには集会所に行くことすら、抵抗を感じさせます。大人に、たとえその言葉が「今は仲良くつき合って」「差別はしていない」であって、子供のこうした姿が、大人の本音であると思います。子供たちのこんな思いをもって仲良くつき合っても、それは表面だけ事を起さないようにつき合っているだけのことではないでしょうか。

こんな事柄はいろんな形で私たちの無意識のうちにも出てきます。たとえば、町の同和推進協議会の事業には、「先進地研修」が組まれますが、私たちの最も身近な地区とかかわった差別の実態に学ぶという大切なものが欠落しているのです。だから福岡市の研修で指摘されたように、「地元地区の一人の参加もないのなら、遠いこんな所へ来るより、まず地元地区へ行くべきではなかったか」といわれても、私たちは何とも答えようがないのです。

このことを学校教育、社会教育でどのように解決しようと考えておられるのか。また「あそこばかりよくなる」「同和の人になれば金もあつとですか」といったねたみや誤りを行政はどう解決しようと考えておられるのか。単に学習会をやめたり、事業をやめて差別がなくなるものではありません。今こそ十年間の特別措置法と、それに基く事業が何であったのか反省してみる時期ではないのか。

この中で町の同和推進協議会がどんなに多くの行事を消化しても、はじめに述べたような事態にふれ、それを解決する方向へ進まなければ「推進」とはならない。それどころか差別の拡散にしかたらないと思います。

お知らせ・お知らせ

県産業開発青年隊員を募集

熊本県産業開発青年隊訓練所では五十四年度の訓練生を募集しています。

○修得科目 土木施工、測量、建設機械の運転、整備(一カ年間)

○応募の資格 十八歳から二十五歳までの心身ともに健全で共同生活に耐える独身男子、高卒程度の学力のある人

○募集人員 五十人(一般四十人、市町村委託十人)

○募集期間 十一月一日から五十二年一月三十一日まで

※応募方法は菊池郡大津町大津二二七の一(☎八六九一一)熊本県産業開発青年隊訓練所へ

県産業別最低賃金も改定に

熊本労働基準局は十一月九日、さきの県最低賃金の改定に続き、県産業別最低賃金(七業種)についても改定する公示を行いました。

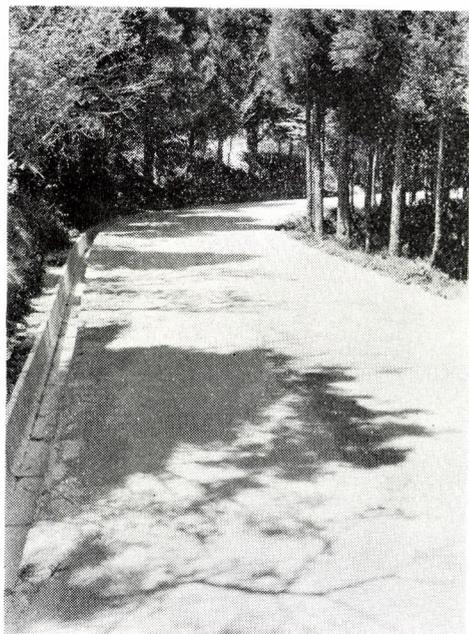
今回の改定に伴い、使用者は最低賃金以上の賃金を支払うこともとより、常時作業場の見やすい場所に、最低賃金の概要を掲示するなどの、方法をとらねばなりません。

改定は▽食品製造二千四百

目で見る

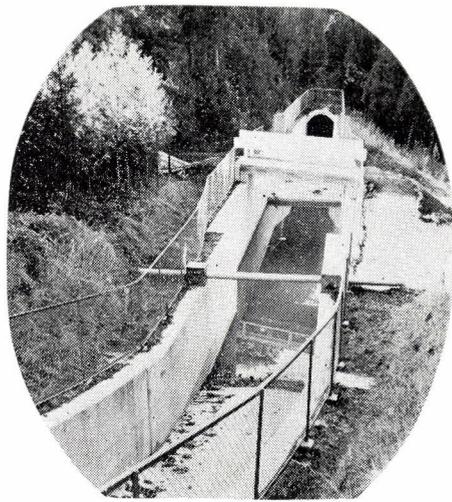
また五十三年度事業も大半は着工になり、高森小学校改築や町営住宅など順調な進捗を見せています。

そこで今回は一年の町政の足どりを写真グラフで大まかにまとめて紹介することにしました。



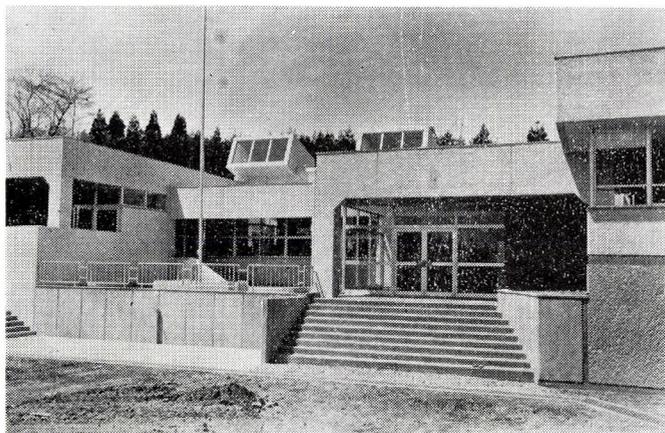
町道の改良・舗装進む

町の基盤整備はなんといっても町道の改良・舗装が重点。五十三年度では「取首―水湛線」「牧戸線」「赤羽根―高尾野線」などの改良が行われるほか「西丁―中園線」「社会―倉地線」など約三十一路線が舗装されることとなります。



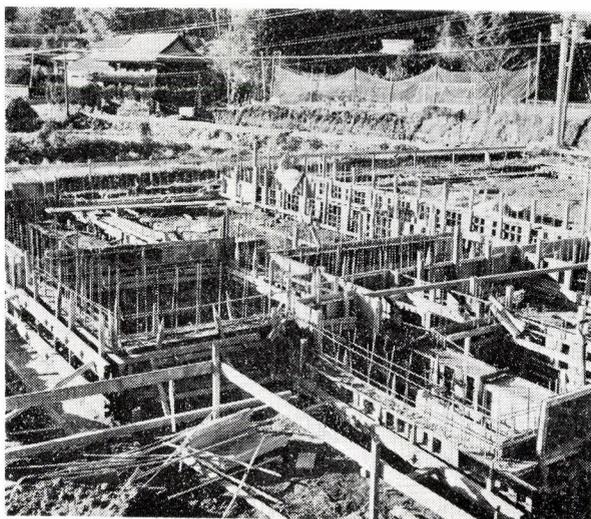
内山川の河川工事が完了

高森峠一帯の災害防止を図るため、県ではこのほど内山川の河川を整備する一方、中山川につながる排水路も完成させました。



河原小学校の新校舎が完成

昨年十月から建設していた河原小学校が五月に完成しました。新校舎は鉄筋コンクリート平屋建て、延べ面積は六百八十平方メートル。旧校舎よりひと回り小さいようですが内容はデラックス。普通教室、視聴覚・音楽室などが合理的に配置されています。とくに床や壁、採光にはいまままでの校舎に見られない工夫が施されています。総工費一億一千五百万円。



「林業センター」の建設始まる

農林基盤整備の一環として、本年度は野尻地区に「林業センター」を建設しています。林業に関する技術研修に使われるほか、会議やレクリエーションの場としても、町民のだれもが気軽に利用できる多目的な施設です。場所は野尻小学校の前。鉄筋コンクリート平屋建て三百二十平方メートル。総工費は約三千六百万円。

奥さま情報

カン詰めと乾電池

カン詰め(のふたの記号は、上段が原料の種類、調理方法、形態、大きき、中段がメーカー名、下段が製造年月日です。下段左の一字が製造年、次の一字が月、ただし十月は0、十一月はX、十二月はY)最後の二字が製造日を表わしています。例えば「3010」は一九七三年十月十日に製造されたものです。五

「略号」は読めますか

買うときは、製造年月を確かめてください。テストを備えている店では、古くなっている乾電池には、マイナス側に製造年月が三字で表示されています。最初の二字が月、最後の一字が年を表わします。例えば「084」は一九七四年八月製造のことです。

竜門ダム工事で無縁墳墓を改葬

建設省九州地方建設局では、竜門ダム建設のため、次の無縁墳墓の改葬を行います。もし縁故者があれば町民課衛生係まで至急お知らせください。

〔墳墓の所在地〕 菊池市大字班蛇口字下鶴二二二、同三六、同三

県立農業大学の学生募集

熊本県立農業大学校では将来農業を担ってゆく優れた自営農業者の養成を目的に、五十四年度の学生募集を次のとおり行います。

〔改葬先〕 菊池市大字西迫間字榎原一〇八番七号 菊池市大字竜門字村脇六一四番の一、二

△修業年限▽二年(全寮制)
△募集人員▽農学科 百人▽畜産学科 二十人
△応募資格▽同校を卒業後、県内に従事しようとする高等学校卒業者(五十四年三月卒業見込者を含む)または、これと同等以上の学力を有すると大学校長が認めた人で、十歳以上二十五歳未満の人。
△願書受付▽五十四年一月二十二日から三十一日まで同校で受け付けます。願書等は同校、県農産経営課、または最寄りの農業改良普及所で配布します。
△試験期日▽推せん選考 二月九日▽試験選考 二月二十三日(筆記)、二十四日(面接)▽場所は菊池郡合志町栄三八〇五 県立農業大学校
△合格発表▽三月十二日

七、字上原九九 同一〇三番地、字下半尺一八六一、同一三九番地、字向原二五九番地、字中村七〇八番地、字中山九四三一一、同九五四、同九六四―三番地、字二ツ野一〇八六番地、大字竜門字治田道四九八、字村脇六一四一一、同六一四―二番地
〔改葬先〕 菊池市大字西迫間字榎原一〇八番七号 菊池市大字竜門字村脇六一四番の一、二

作品が展示された会場



グリーンコープスの発表



高森町民音楽祭

町文化祭

趣味の作品など展示

音楽祭も二年目で盛り上げる

町ぐるみの「芸術の祭典」として毎年好評を博している高森町文化祭は十一月三、四の両日、畜産センターと高森中体育館で開かれ大勢の参観者でにぎわいました。文化的な創作、趣味の作品を一堂に集め、お互いの交流を図るこの文化祭も今年で十回目。主会場の畜産センターには、水桶や面桶、鞍、御簾(おひつ)、たらいなど昔懐かしい、生活用具などを集めた郷土資料展ほか、絵画、書

道、盆栽、写真、いけ花、手芸など十二部門にわたる約七百点の力作が展示されました。とくに今年には木工細工展が登場。精薄者厚生施設「高森寮」一生らが作った焼板木根細工も人目を引きました。一方、高森中体育館の会場では風鎮祭ちびっこスケッチ大会の入賞、入選作品と町内小中学生の絵画、書道、合せて約二百五十点が展示され、父母に連れ添った子供たちでいっぱいでした。

さらに、これら展示部門に加え、第二回町民音楽祭も同会場で開催、大勢の観客が詰めかけました。出場者も昨年より五十人余りふえて約二百人になったため、日程を二日の夜と三日の昼に分けて開催、この夏の風鎮祭に初登場した風鎮太鼓をはじめ箏曲、コーラス、民謡、歌謡曲、フォークソング、バンド演奏、歌曲などバラエティに富んだプログラムが披露されました。

電話機の特性



受話機を取り上げてから、二十五秒ぐらいダイヤルを回さないで放っておくと、電話はひとりだけで回してしまいます。またダイヤルを回し始めてから、五秒以上途中で回すのを止めると、同じく切れてしまいます。

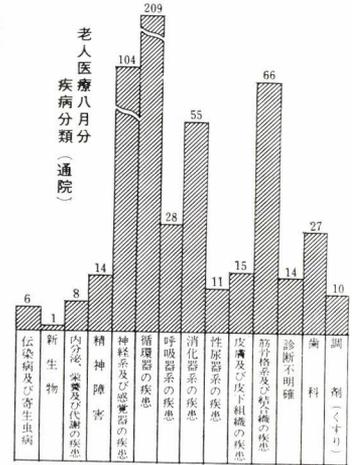
さらにダイヤルを回し終って、呼び出しの信号が五秒から遅いときは十五秒ぐらい聞いてこない場合がありますが、これは電話器の故障ではなく、交換機が相手方の電話番号を探しているためです。

2人に1人が受診

国保8月の診療分

ムダな受診やめよう

医療給付の増加で、町の国保財政はピンチに立たされています。八月診療分で医療の状況を見ますと、被保険者六千五百六十八人に対する受診総件数は二千九百三十三件、おおむね二人に一人は医者にかかったこととなります。





後藤一恵さん

精神薄弱者更生施設「高森寮」の指導員、後藤一恵さん(三)は第二十五回NHK青年の主張全国コ

NHK青年の主張

後藤さんが県代表に

わたしの選んだ道

ンクール熊本県大会に応募して、ご最優秀に選ばれました。このコンクールは青年自身が何を、何を考えているかを一般の人々に強く訴えようと、現代の若い世代の清新かつ建設的な意見を交換することを目的に毎年行われているもので、県大会の最優秀者は九州地方大会に出場できることになっています。熊本県大

会には六十三人が応募、この中から後藤さんら十人が原稿審査に合格して、さる十一月十一日、NHK熊本放送会館第二スタジオで主張の内容、話術、態度などの審査を受けました。後藤さんのテーマは「わたしの選んだ道」で、子供たちと農作業をとおしての心のふれあいを書き出しに、施設の保母として将来の生き方を決定づけた動機、喜びなどが力強くまとめられています。後藤さんは河原の出身で不二男さん(四五)の長女。中九州短期大学幼児教育学科を卒業したのち、現在の職場に開所当時から勤務して

老人、女性も元気に完走

国民休暇村オープン記念第三回マラソン

南阿蘇国民休暇村、オープン記念第三回マラソン大会(町体育協会・町教育委員会主催)は十一月十九日、小学一年生から七十二歳のお年寄りまで二百八十五人が参加して開かれました。レースはまず十キロ組(休暇村



たばこ養蚕協議会の会場

話し合いで解決へ

競合するたばこ・養蚕

町協議会

たばこ栽培と、桑園経営は競合し、双方の農家にとって頭の痛いところ。ともに町が奨励している有望作目だけに、協調の精神で問題解決がカギとなっています。来春のたばこホ場決定を前に十一月九日、町たばこ養蚕協議会(会長・岩下町長)が役場会議室で開かれ、五十四年度の事業計画などを決めました。

町内の葉たばこ栽培農家は、白遠州二百十九戸。面積は百三十八町。一方、養蚕農家は四十四戸で四十三町の面積。ともに町農業を支える柱の一つとなっています。ところが栽培地が台地、中山間部を適地としているため、ホ場が競合する例が多いようです。たばこからはニコチン、トリメチルアミンが発散し、隣接する桑園などに飛び散り、桑葉にくっつき、これらはカイコにとって有害。たばこ耕作農家と養蚕農家がとなり合う

ところでは大問題となっていました。このため町たばこ養蚕協議会がつけられ、話し合いによる問題解決に当たっているわけです。協議会には森田高森町農協長、本田たばこ育苗組合長、楡木野養蚕色見支部長ら二十人が出席、対策について話し合いました。この結果①タバコのホ場は桑園から離れたところを選ぶ②一定距離内に、たばこ、桑を新殖しようとする場合は、ホ場決定前に標識(たばこ赤、桑は青の三角布)を揚げ協議する③一定距離以内の場合にはホ場代替の斡旋を行い、やむを得ない場合は両者で防護サツの設置などの予防措置を図る④の方針を決めました。

います。

町内往復)が午後一時十分にスタートしたあと、五キロ組(高森高校―休暇村)、二キロ組(村島坂―休暇村)が同一時半に出発してゴールめざしました。沿道には参加選手の家族が顔を寄せ、にぎやかな応援風景が見られました。上位入賞者は次のとおりです。
〔十キロ〕▽一般・高校①下田勝己②本田次人③津留明義
〔五キロ〕▽一般・高校男子①林隆昌②倉岡英夫③岩下寛一▽同女子①松山尚代②峯やよ③田尻悦▽同中学男子①宇藤康博②佐藤雄一③三森祐時
〔二キロ〕小学男子①積軍人②児玉秀昭③頼井一二三▽同女子①児玉由美②高月清美③佐伯樹▽中学女子①篠田由美②今村信代③後藤久美Ⅱ写真は休暇村のゴールめざして走る子供たち

